

# ストレスケアと レクリエーション

今、子どもへの虐待は増加の一途をたどっています。平成23年度に発生した児童虐待は、何と年間5万9千件以上。今回は、『虐待は、脳への“傷”を残す』という事実を明らかにした、福井大学病院の友田明美教授に虐待が脳に与える具体的な影響、さらにはそのケアについてお話いただきました。

虐待によって、脳は傷つく。

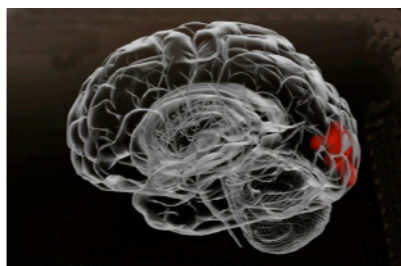
友田さんが児童虐待を初めて目にしたのは、かつて研修医として勤務していた救命救急センターです。

「虐待を受けた3歳の男の子が救急車で運ばれてきたんですが、意識不明の状態で、助けることができませんでした。なぜ実の親が、殴ったり蹴ったりするのか。虐待を受けた子どもは、ストレスで心の後遺症が残るんじゃないのか。そんな疑問を抱き、虐待と子どもとの関係について調べてみたいと思ったんです」

友田さんは、熊本大学に在籍していた2003年に米国ハーバード大学に

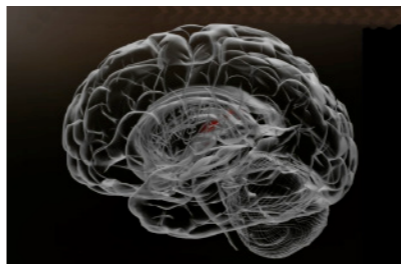
客員助教授として赴任。ここでの研究で、虐待が脳を傷つけること、さらに虐待のタイプによって、脳は傷つく部分が違うことを明らかにしたのです。

子ども時代に「性的虐待」を受けた人は、「視覚」をつかさどる脳の容積が減少。『暴言による虐待』は、「聴覚」をつかさどる脳の容積が異常に。強い体罰による虐待は、「感情・理性」をつかさどる脳の容積が減少。



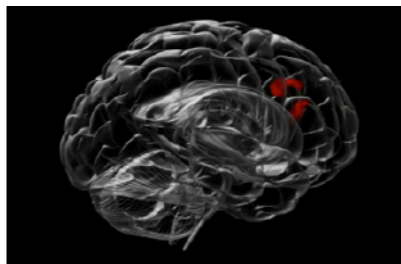
「性的虐待」の脳への影響  
→「視覚」をつかさどる脳の容積が減少。

子ども時代に性的虐待を受けた女子大学生23名と、虐待歴のない女子大学生14名とで比較したところ、虐待されていた女子大生は、「視覚」をつかさどる脳の容積が18.1%も減少していることがわかりました。さらにこの研究では、虐待を受けた期間が長ければ長いほど、脳の容積が小さくなっていることも判明しています。



「暴言による虐待」の脳への影響  
→「聴覚」をつかさどる脳の容積が異常に。

子ども時代に暴言虐待を受けた男女21名と、虐待歴がない19名とで比較したところ、虐待を受けた人は、「聴覚」をつかさどる脳の容積が異常であることがわかりました。ここでは、コミュニケーションにとって非常に大事な場所。当然、脳の中の色々なネットワークとつながっています。友田さんは「暴言虐待による脳の傷は、無視できないほど大きい」と話します。



「強い体罰による虐待」の脳への影響  
→「感情・理性」をつかさどる脳の容積が減少。

子ども時代に長期間、継続的に過度な体罰を受けた男女23名と、体罰を受けずに育った22名とで比較したところ、体罰を受けていた人は「感情・理性」をつかさどる脳の容積が19.1%も減少していることがわかりました。この部分が萎縮すると「抑うつ状態や行為障害などの精神的なトラブルを引き起こす」と友田さん。

私たちからすれば虐待を受けている環境は普通ではありませんが、実際に受けている子どもたちにとっては、それが日常。一般的な生活を知らないのが、疑うことができません。その結果、苦痛や恐怖が日常にあるという特殊な環境でも生き残れるよう、脳を適応させて

いくのです。

虐待を受け、脳を傷つけられた人たちは、さまざまな発達のみずみやゆがみが出てきます。落ち着きがなくなったり、集中力が落ちたり、イライラしやすくなったり、ウツになったり、突然衝動的な行動に出たり……。子ども時代に

DVを目撃した人は、トラウマ(心的外傷)反応が生じやすく、知的能力・語彙理解力が低下するという結果まで出ています。

さらにこれらの症状は、二つのタイプの虐待よりも複数のタイプの虐待を受けた人の方が、精神病性の症状へ進展するリスクが大きいこともわかっています。

## 虐待による傷が、家庭・学校・社会に与える問題。

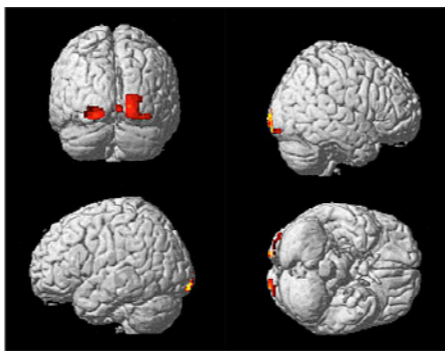
虐待が脳に与える影響の大きさについて、友田さんはこんな話をしてくれました。

「以前、6都道府県の16の児童養護施設で暮らす子どもたち287人を『親がない(死別、精神疾患など)子ども』『反社会的行動を起こした親(アルコール、薬物依存など)の子ども』『そして『親から虐待を受けていた子ども』の3グループに分け、どのグループがうつ病を発症するか解析しました。そうし

たら、うつ病を発症するのは『親から虐待を受けていた子ども』だけだということがわかったのです」

一般的に見ると、親がないことも大きな問題のように思えますが、虐待は親がないことを、はるかに上回る影響を及ぼすということなのでしょう。虐待によって脳にきざまれた傷はかなり根深く、簡単には癒されれないものだということがよくわかります。

「聞いたことがあるかもしれませんが、虐待を受けていた人は、自分の子どもにも虐待を行う傾向が指摘されています。そういう人たちが、我が子に虐待を行う確率は、普段は平気でも、精神的ストレスが高まったときに虐待を行う確率は、合計すれば、虐待を受けていた人の%が、我が子を虐待しているわけです。虐待を受けたストレスは、その人の脳をつくりかえ、反社会的な行動を



カラーバーは、T値を示しています。



R-interview

虐待を受けて傷ついた脳でも、  
きちんとケアをすれば回復する。  
友田明美さん

